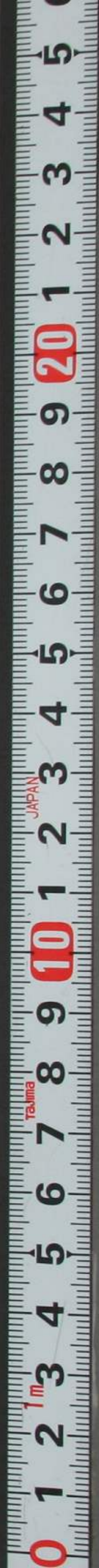




茶之湯秘録

ヲ多9
2227
1



7多9
2227
/

五十四日

目録

- 夜合之事
- 不空之事
- 吾之事
- 汝之事
- 夜合之事
- 不空之事
- 吾之事
- 汝之事

大正四年

藏

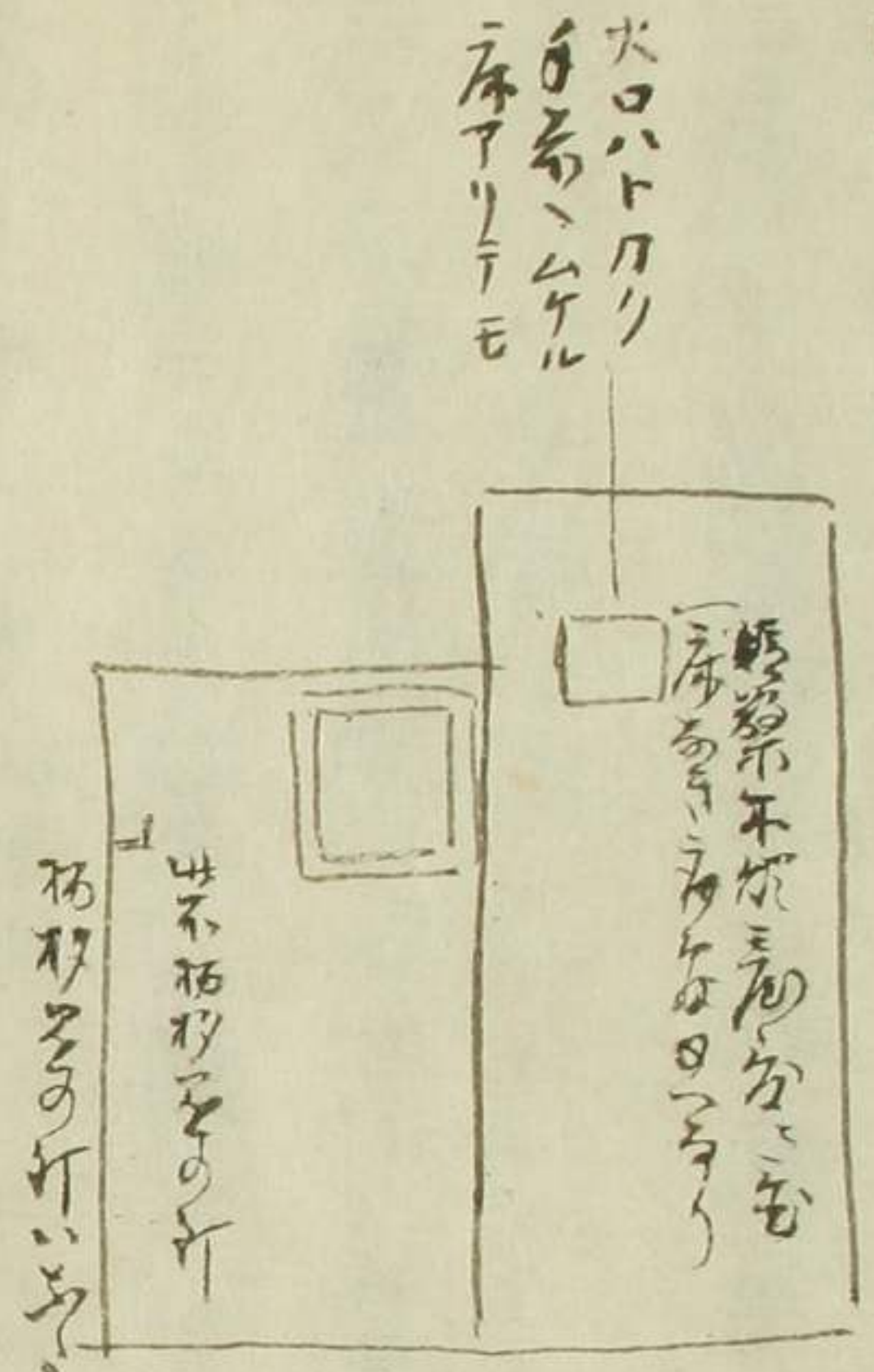
- 一 菓子のおもひ事
- 一 道途の草花事
- 一 月の夜合事
- 一 黄昏の草花事
- 一 眞の独客の思事



夜合の事

- 一 待合柳の影事
- 一 物易の影事
- 一 窓の影事
- 一 夜合の影事
- 一 花の影事
- 一 燈籠の影事
- 一 月影の影事
- 一 雲影の影事
- 一 水影の影事
- 一 石影の影事
- 一 土影の影事

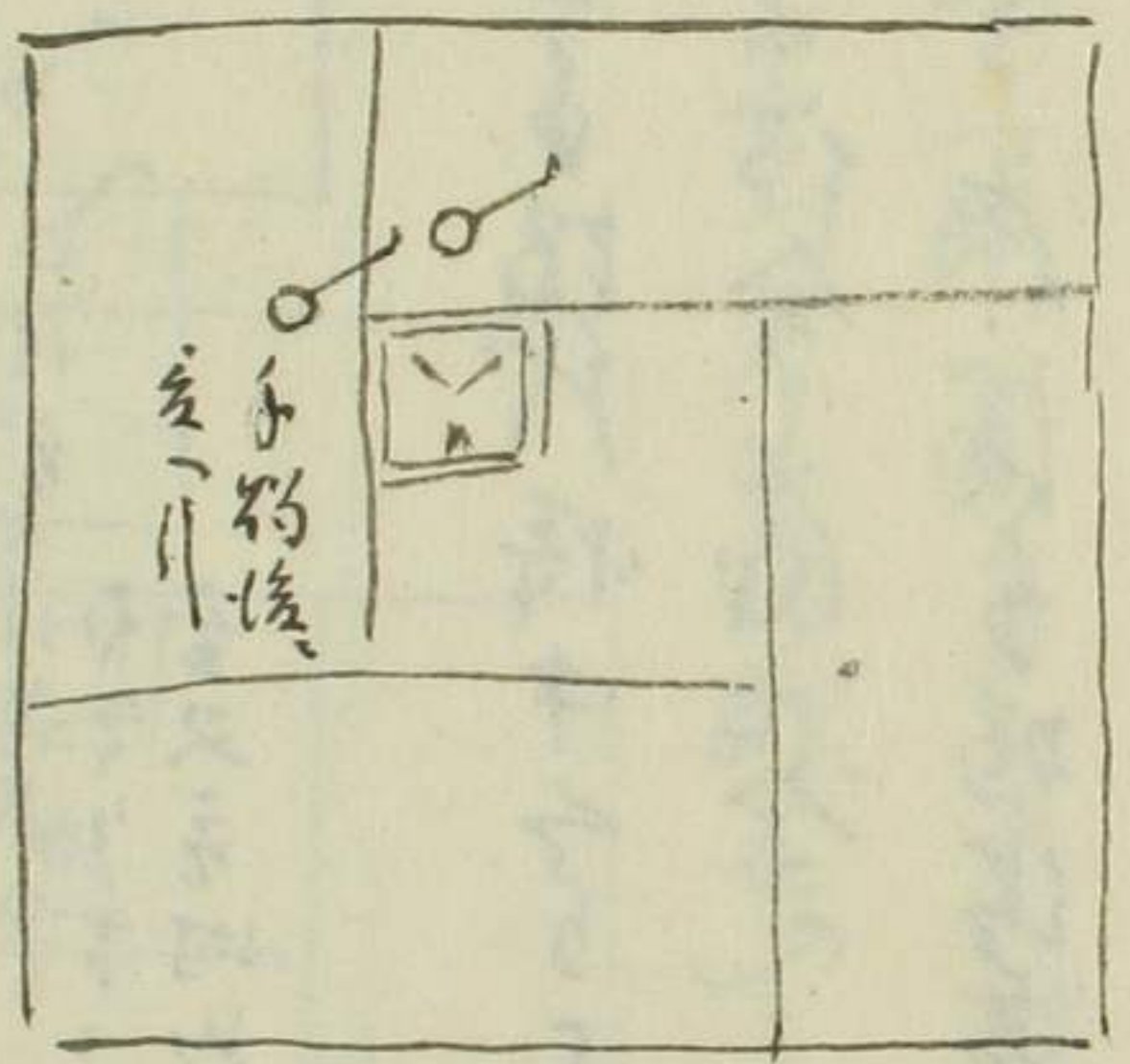
一 窓より大目にて、好む向たり、少刻し、屏の中見ゆるを
向切し、とむ向ひて、たゞむ



一 土を平す、その白濁水垢と、好縁とあり、と、白物ハ向へ、ふし
一 初巻、清り、たゞ、火と、床、む、と、色、し、黒、紙、寄、如、何、と、之、後、者
の、其、し、右、左、ハ、亭、を、心、取、牙、し、火、床、馬、中、ハ、也、

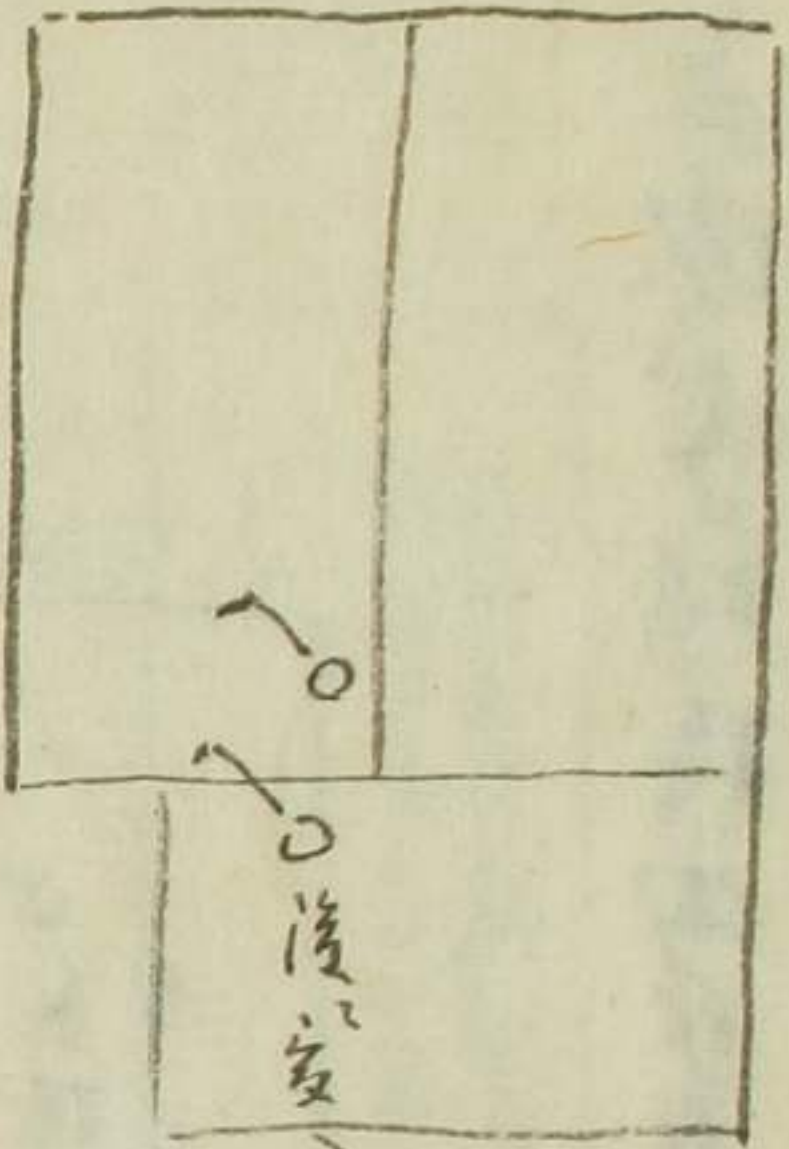
一 床、不、平、ハ、木、柱、産、限、を、た、り、し、若、く、う、云、行、紙、懸、し、床、上
と、助、更、り、

四、五、十、
八、十、五、十、



一 土、平、す、の、次、ハ、白、濁、水、垢、出、る、事、平、の、時、ハ、白、濁、水、垢、を、下、り、を
初、し、湯、を、下、り、は、白、濁、水、垢、を、下、り、を、

大目子場主帳



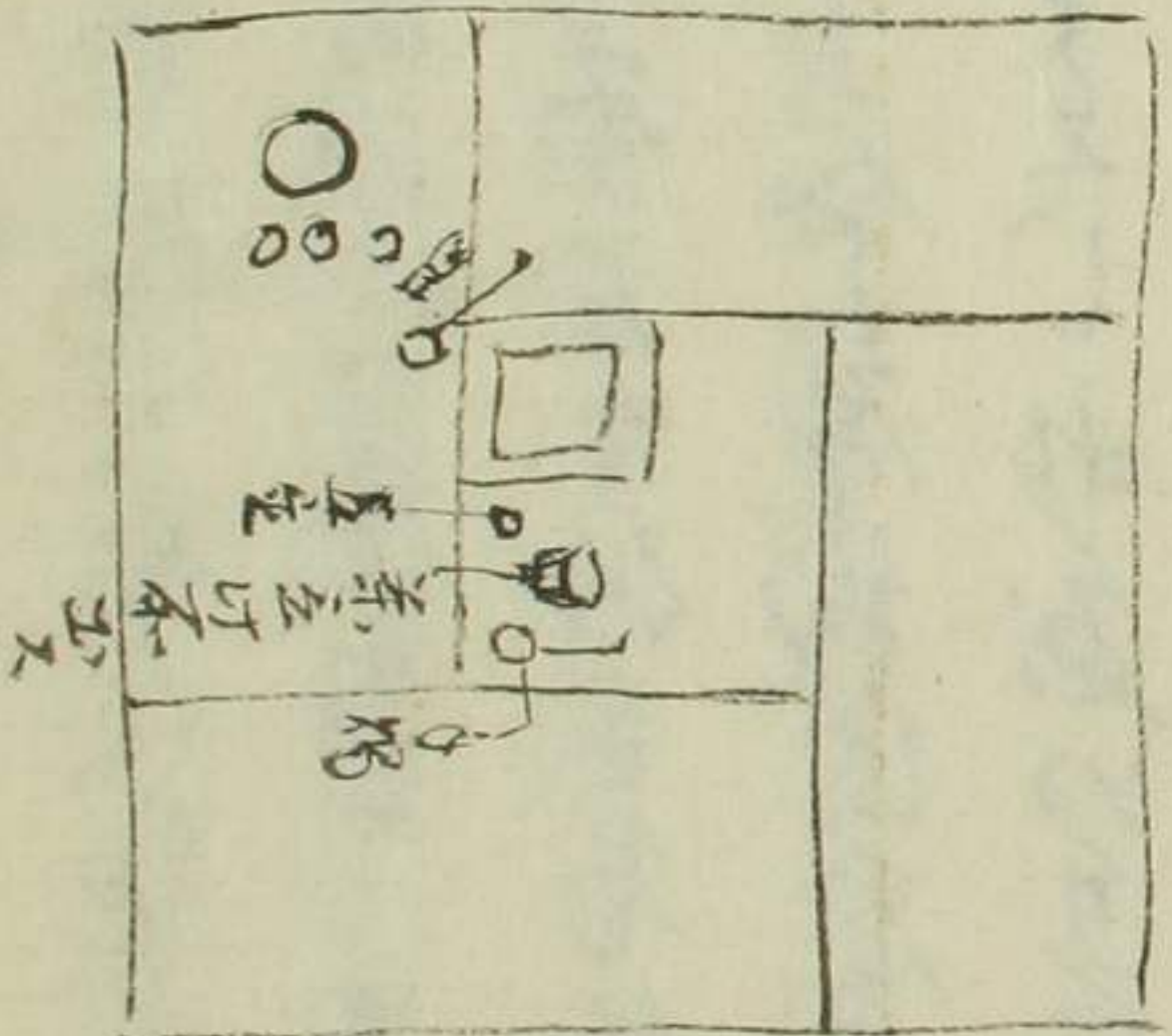
川内
りり下
宝又

- 一 家持合小瑞... 中令り... 出せむ外...
- 一 上、動之... 向入...
- 一 花名... 後...

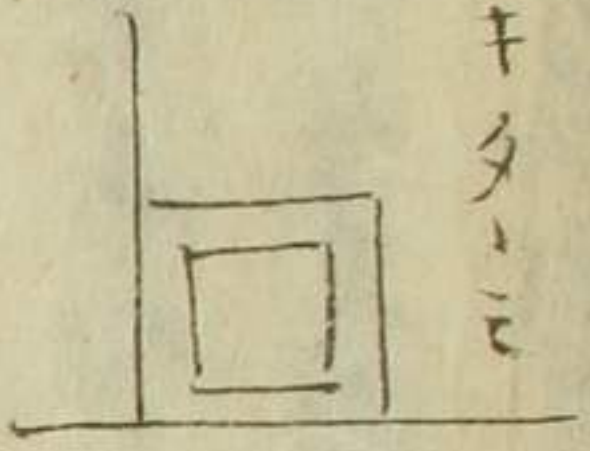
一 花名... 後...

一 花名... 後... 夫... 子... 場... 主... 帳... 一... 所... 花... 名... 子... 場... 主... 帳... 一... 所... 花... 名... 子... 場... 主... 帳...

四五
茶



カキタニ



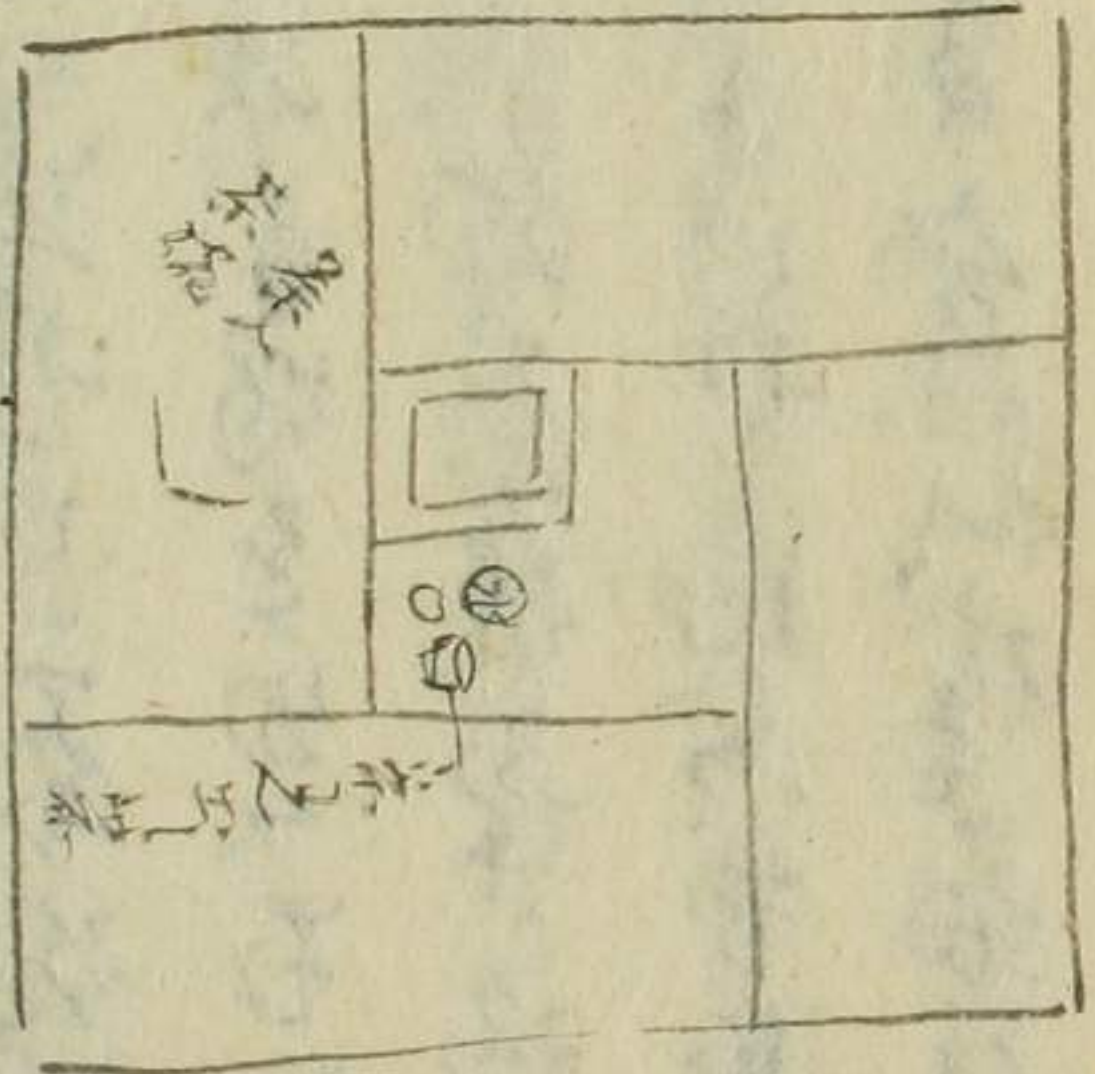
西の亭を
白の
先、



ケ後

一 右の別く、
室に入系、
遠少、
合てし

日本



一 彦、
屋、
後、
候、
テ

月夜の長しき

一 月夜は柳の影を高く月あかりさする事新夜へ一花
とそらぬは月つらひのしるる事あらぬと
一 然るに火のつらひをさす事又後きく事と
一 然るに火のつらひをさす事又後きく事と
一 然るに火のつらひをさす事又後きく事と

黄泉の事

一 冥府の時を言ひしり利り事成ししは
一 冥府の時を言ひしり利り事成ししは

一 冥府の時を言ひしり利り事成ししは

柳の影を高く月あかりさする事新夜へ一花

とそらぬは月つらひのしるる事あらぬと

然るに火のつらひをさす事又後きく事と

然るに火のつらひをさす事又後きく事と

然るに火のつらひをさす事又後きく事と

然るに火のつらひをさす事又後きく事と

然るに火のつらひをさす事又後きく事と

然るに火のつらひをさす事又後きく事と

然るに火のつらひをさす事又後きく事と

別之書之接投物法其陰仕露下八中之接投
之後以徳子の口へ亭之入者中之接投してその内經藥
敷出—定之物を花箱取の種子を敷物をして亭之
常に通通に出るくは多揚物して—接投道具
房系しそらひ等之備付夜合く過去をいふ
常れをばまふ及花飛入に所はは徳系成懸知に
—し右徳系は所は是揚子入吹房中にお出はる
—接投法へしを亭を他系はるくは果房を—行を
て先より分けて中へ亭を果房に上りて果房に
合致揚子へ持入揚物を吹房を接投出を以て果房

揚子持入果房は其果をとり入れ次に夜合に出る
夜合は揚子を入りて又果をとり入れ徳系は之を道具
中へ徳系しそらひ道具は—まう二まう取つては
—と夜合し—道具は—はあり——接投薬を出し
—のり中—は—内—也

不詳し事— 品は法を以てす

- 一 不詳し事— 品は法を以てす
- 一 不詳し事— 品は法を以てす
- 一 不詳し事— 品は法を以てす
- 一 不詳し事— 品は法を以てす

形並一程得る時有下火と入ると然る一ありて後
結し紙成ハ先固ん徳一合ありと交入の下火を

不中し系し為し文

何れと形しし下火をた度候なり馬皇少何れに
有仁と息の所を者しゆし神中候思ふ也一
和成りしりしり也

何れと形しし下火の系陽即ちとすは
いし系し下火とありと其の好なり系陽正る候也
此を以てやしと定と六つありし

踊りし文

平人出の御水は清亭とありし道具名相物出る

中平及通見しる金砂之昔に成りありし一正年ハ
通見の在り

通見しる事ハ昔後原の山ありし中平ヤカク
其の序を中平とてし是の山ありし由山編
とありし山あり其大なる通見の中平とて大なる山
の通見とありし事あり

果多山一りり

下平中とのとる時の科相色し

回し情候就し通多し一系大に候し不入階の法

云傳めむ事し底を掛りし

昔の通見ハ近而人成付包して其の立て後原く
有て通見し事ありし

亭子のふりかへ

一 待合行儀をうね極りてし亭子のふりかへを
うしむ

一 柳屋をうねうりて極りてし柳屋の
能手と極りの柳屋合行をみる

右名柳傳

